

三宅島の現状 (その88)

平成16年10月15日
三宅村現地本部 (三宅島)

【気象及び火山活動状況】 9月26日～10月11日

今期間の気象状況は、期間を通して雨の日や曇りの日が多くなりました。前半は高気圧の縁を回って流入する湿った気流の影響や台風21号の接近で雨の日が多く、9月26日には坪田で日降水量51.5mmを観測、大雨警報が発表されました。

期間の後半も前線や低気圧の影響で雨の日が多く、10月6日には大雨警報が発表され、阿古で日降水量99.5mm、8日には伊豆で127mmを観測しました。また、9日には台風22号が三宅島に最接近し暴風警報が発表されました。

火山の活動状況は、26日に火口上800mまで上昇する白色の噴煙を観測しました。なお、三宅島近海を震源とした有感地震はありませんでした。

火山ガス(SO₂)の放出量の観測については、28日に防衛庁の協力により実施した結果、それぞれ約6,300トン～6,400トン/日を観測しました。

今期間の島内でのガス濃度(SO₂)は、1日に薄木生コン工場で最大3.8ppmを観測しました(東京都環境局観測)。

【帰島の準備】

台風22号の接近で被害が心配されましたが、幸い被害はありませんでした。台風一過の青空は望めなく、秋雨前線の影響で雨が多くどんよりとした日が続いています。

ここ現地本部も業務の一部を10月から阿古中学校(役場臨時庁舎)に移転し来年2月からの帰島に向けて本格的な受け入れ体制を図っています。

防災活動の拠点となる本部では職員(7名)が1週間から2週間交代で勤務し、防災無線による火山活動状況や気象情報の提供、防災関係者の入・出島管理や帰宅事業の対応などさまざまな業務を24時間体制で行っています。

島内では村営住宅の災害復旧工事および新設工事、三宅小中学校の災害復旧工事が始まるなど、本格的な受け入れ準備が始まっています。

また、これまで週4便であった定期船も10月からは毎日寄港するようになり、行き交う防災関係者にも安堵の表情が見られるようになっています。

【滞在型および日帰り帰宅の実績】

(1) 滞在型帰宅事業の実績

9月24日から30日	坪田地区	1泊参加者	31世帯	58名
		3泊参加者	42世帯	68名
		5泊参加者	22世帯	39名

(2) 日帰り帰宅事業の実績 9月29日 坪田地区 台風のため中止

問合せ先：三宅村現地本部 (三宅島) 04994-5-0218

三宅島 社協だより

第 121 号

平成16 (2004) 年10月15日発行

発行 三宅島社会福祉協議会
 会長 寺本 達
 東京都新宿区神楽河岸1-1
 ☎ (03)-3235-5730
 FAX (03)-5229-1651
 e-mail: mjshakyo@jeans.ocn.ne.jp

第9回三宅島島民ふれあい集会のお知らせ

多くの島民の方はもとよりこれまで力強い支援を行って下さった関係の皆様から、もう一度島民の皆さんを勇気付ける機会とするために、島民ふれあい集会を開催してはとの声をいただき、来たる11月28日(日)午前10時30分より港区立芝浦小学校・芝浦幼稚園において、「第9回三宅島島民ふれあい集会」を開催することとなりました。今回も福祉車両による個別配車やはとバスによる送迎を予定していますのでご利用下さい。東京で行われる最後のふれあい集会です。

個別配車について

今回も出来るだけたくさんの方の人たちにご参加していただけるよう、移動に心配のある方やお身体の不自由な方、施設に入所されている方などを対象に、車椅子に乗ったまま乗降できる乗用車などにより送迎を行います。

※介護を必要とされる方につきましては原則として1名の同乗者を認めます。

※施設に入所されている方ならびに当日の送迎先が施設になる方はあらかじめ施設の了承をおとりいただいた上でお申し込み下さい。

※配車の手配がついた方には、担当する移送団体より確認のご連絡が入りますので、お迎えや会場からのお帰りの時間などをお打ち合わせ下さい。時間は自由です。

※あくまでもご本人及びご家族の責任の範囲内でのご利用となりますのでご承知置きください。

※11月8日(月)までに、三宅島社会福祉協議会までお申し込み下さい。

※利用者の費用負担はありません。

はとバス配車について

前回と同様に各地にて「はとバス」の配車を行います。

詳細につきましては今後別紙にてお知らせ致しますのでご了承下さい。

ご相談・お問合せ先

三宅島社会福祉協議会 (担当/早川・桑村)

電話 03-3235-5730

事務局から

今年の夏は記録的な猛暑となりました。三宅島の心地よい暑さとはどこか違う都会の蒸し暑さは身体にこたえるものではなかったでしょうか。夏の疲れは秋にくると言います。これからが要注意。健康には今まで以上に気をつけてみてはいかがでしょうか。また今年も過去最多となる台風の上陸により各地で大きな被害が出ています。多くの被災者が今尚お互いに助け合い生活をしています。

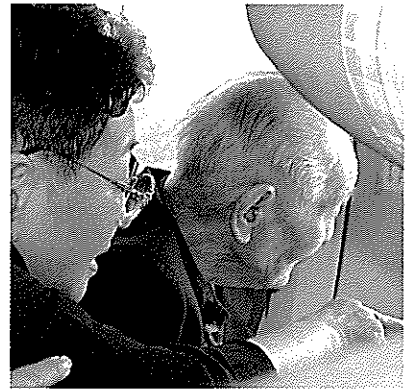
私達も来年の帰島に向け今一度、助け合い支え合う心で乗り切って行ければと思います。(早川)

職員異動

退職
 ○三谷 彰(九月三〇日付) 長い間、三宅島の福祉に力を尽くしてくれました。ありがとうございました。(社協事務局一同)

来年の帰島に向けて

七月二〇日、来年二月の避難指示解除の方針が三宅村より示されました。帰島の方針が示されたことにより島民は新たな希望を持って生活されている方もいる一方で、その一方で帰島の可否をめぐり様々な不安を抱えている方もいます。火山ガスの共生という厳しい条件のもと帰りたい気持ちと具体的な生活の目処の狭間で多くの島民が悩んでいます。今回の噴火災害では、全島民が三宅島の歴史始まって以来の大災害を経験することになりました。全島避



空からの三宅島クルージング
4年ぶりの我家を眺める

その中の島の皆さんの笑顔を思い出さずにはいられません。同時にこの間、予想も出来ないほどの沢山の方々から力強いご支援を頂きました。島の人達が絆を保ちきれない都会で生活

難から丸四年という月日が経ちました。私たちのこの長期にわたる避難生活を支えてきたものは、何よりも島の人々のコミュニティの力であったと考えています。広域分散避難の中、団地の中で訪ね合い、電話によって声を掛け合い、いたわり合い支え合う気持ちがあったからこそ長い島外での生活を乗り越えてこられたと思います。避難前の普段の生活の中で脈々と築きあげてきた島のコミュニティの力、島の人の力強さをあらためて感じています。三宅島の穏やかだった暮らし、

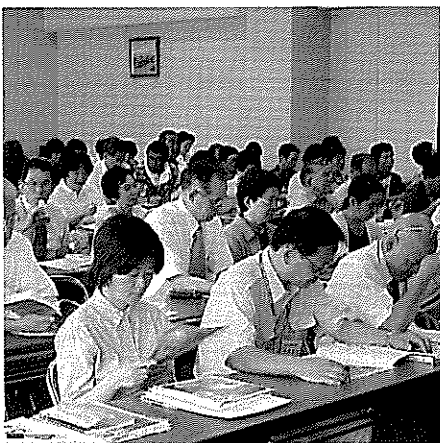
していく上で、都内はもとより全国の皆さんのご支援は大きな力となりました。避難中に出会った方々は帰島後も私達三宅島島民にとって大きな財産になるでしょう。末永くお付き合いいただければ幸いです。さて、本会は継続する避難生活中の福祉課題への対応を続けながら体制を強化し、帰島に向けた準備に入っております。三宅村の帰島計画及び保健福祉総合計画と連動して、高齢の方や障害をお持ちの方などへの福祉サービスを再開し、ボランティア活動や住民活動の再建もお手伝いしたいと考えております。災害前からそうであった様に住民が共に支え合う島作りを目指したいと思えます。

また、帰島時の当面のボランティア支援の受入も緊急の課題です。現在、関係機関やボランティア団体と調整を急いでおります。住民説明会も行われ帰島に向け一歩一歩進みだして

社協だより「121号」目次
 ○帰島に向けて……………①
 ○島よ社協連絡協議会②
 ○夏の信州旅行……………②
 ○新島での避難生活…………③
 ○新潟集中豪雨……………③
 ○ボランティア参加③
 ○空からの三宅島……………④
 ○クルージング……………④
 ○北区編み物教室……………⑤
 ○TVAC副所長より…………⑥
 ○ゆめ農園の花東大好評⑦
 ○寄付金のお知らせ…………⑦
 ○ふれあい集会お知らせ⑧
 ○空からの三宅島……………④
 ○クルージング……………④
 ○北区編み物教室……………⑤
 ○TVAC副所長より…………⑥
 ○ゆめ農園の花東大好評⑦
 ○寄付金のお知らせ…………⑦
 ○ふれあい集会お知らせ⑧

島しょ社協連絡協議会新島大会

七月九日(金)、新島において平成一六年度島しょ社会福祉協議会連絡協議会が開催されました。三宅島からは役員六名、職員五名の計十一名が参加しました。この会議は毎年地理的条件によって交流することの少ない島しょ社協関係者が小笠原を含めて一同に会し、行われていきます。お互いの地域の情報交換や問題点を話し合い、今後の各島での福祉活動に役立てる事を目的としています。大島から小笠原までの各島と、東京都社会福祉協議会(以後東



社協)その他来賓も含め九二名の参加があり、盛大な会となりました。開会式では、新島村協会の小川会長、川島東京都議、新島村前田助役からそれぞれ三宅島住民、社協へのお見舞いの言葉を頂きました。また、東京都の吉仲福祉局長は、お見舞いの言葉と共に万全の帰島準備を進めていく最中だと挨拶され、会場全体で三宅島の復興を願って頂きました。会議では、東社協福祉部の中村部長を講師としてお招きし、「これからの社会福祉協議会と役員に期待されるもの」というテーマで講演をして頂きました。最近の社協をとりまく主な状況や問題点を把握した上で、今後社協の役員として何をしなければ

ならないのか、住民に支持される社協とはどういったものなのかといったお話を聞きしました。午後からの第二部では役員の島内視察と、事務局職員の研修に分かれて行われました。研修会では、新会計基準について意見交換が行われました。新会計基準は一般企業のように全体の収支がひと目でわかるという特徴がありますが、まだまだ問題点も多いなどの意見が出されました。三宅島社協では、他の島しょ社協に遅れをとる形で今年度より導入されています。現状は手探りで運用となっていて今回の研修は今後の課題をあらかじめ把握でき、有効な研修会となりました。研修終了後は、少ない時間ではありましたが新島社協の計らいにより予定外の島内視察に出かけることができました。新島の美しい自然や、今年完成したばかりの平成新島トンネルなどを見学することが出来ました。

夏の信州家族旅行

この夏、長野県大町温泉郷の白馬おじさんバンドの方々の招待により「夏の信州家族旅行」に母と子供たちを連れて参加しました。今回は夏の長野。あの有名な黒部ダムに行けると言う事でとても楽しみにしていました。猛暑の続く東京から行ったので長野はとて涼しく感じられました。子供達の第一声は「ねえ！雪どこ？」長野と言えば雪遊びの印象が強かったのです。うか。「長野だつて夏は暑いから雪はないよ」と言う少し残念そうでしたが、我家の自然児達は早速虫探しに夢中となりました。バッタを捕まえてトンボを見つけて。蛇に遭遇した時は私が悲鳴を上げてしまいました。長野の大自然の素晴らしさです。二日目、いよいよ黒部ダムへ向いました。なんと広くて大きいのでしよう。大きな山を堰き止めたそのダムを実際に自分の

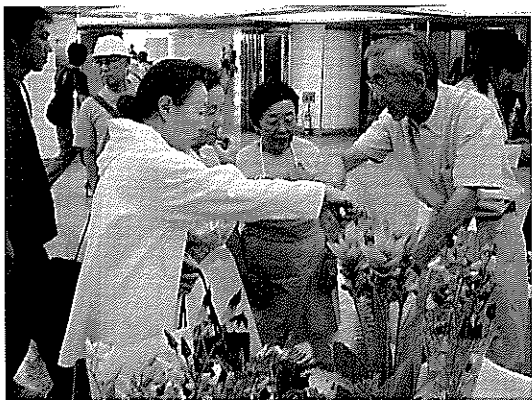
目で見て歩いてみました。テレビで見るとは違って改めてその凄さに感動しました。放水している一八六メートル下を除くと虹がかかっていてそれは綺麗なものでした。遊覧船にも乗って広いダムの中を駆け足で回りました。ご招待頂いたホテル「ゆめの湯」の皆様もとても親切で食事もおいしかったです。遠い長野の地で三宅島を応援している人達がいるということはとても嬉しくてありがたい事だと思います。とてもよい思い出になった信州家族旅行でした。(府中市・吉澤真紀)



三宅島ゆめ農園の花束大好評

東京愛らんどフェア

九月一五日(水)、一六日(木)の二日間、新宿駅西口「ときの広場」にて東京愛らんどフェアが行われました。伊豆諸島・小笠原諸島の全町村が集まり、各島の物産品を持ち寄って都内の皆様に島のムードを楽しんで頂くイベントです。三宅島からは、三宅島ゆめ農園、三宅ハート会、清水水産が参加しました。どの島のコーナーよりも活気があった三宅島のコーナーですが、中でも三宅島ゆめ



農園の花束と溶岩鉢は人気がありました。一束三〇〇円の花束は、クルクマや観賞用トウガラシなど(二日目は貝殻草のドライフラワー)が用意されていました。午後三時にはほぼ完売していました。この日は島民の方四名で販売していましたが、溶岩鉢も好評で、「重くて持ち帰るのが大変だろ」と心配していたものの、その珍しさや安い値段で次々と売れて行きま

最近の人数も少なくなつたゆめ農園の中で、特に出荷の準備が大変だそう。しかし販売に当たっていた佐久間フヂエさんは、「丹精に育てた花や手間隙かけて作った溶岩鉢を買って頂けることは本

当に嬉しい事だ」と言います。お買い求め頂いた方々も、三宅島のことや、ゆめ農園のことを熱心に聞いていました。中には「ガスが出ているのに帰って大丈夫なの」と声を掛けられたり、「頑張つて下さいね」と励ましの言葉も頂きました。今年から参加した三宅村ゆめ農園ですが、佐久間さんも「こんなに喜んでいただけると早くから参加させてもらえば良かった」と言っていました。帰島後、自分の畑で仕事が出来るか分からない状態で、悩んでいる方もいます。島に帰つてもゆめ農園のような集まる場所が出来ればと思います。

ゆめ農園は本来九月末で終了の予定でしたが、参加者の希望で一二月まで延長されたそうです。皆喜んでいて、更に力を入れ頑張つ



寄付金のお知らせ

(平成十五年十二月十五日〜平成十六年二月十六日) 次の方々よりご寄付を頂きました。ご厚志、誠にありがとうございます。

◎一般

- 井澤 萬一郎 様 金五万円。亡母フミ様の ご香料の一部を
- 野口 俊彦 様 金十万円。亡妻六七子様のご香料の一部を
- 田村 瑞子 様 金十万円。亡夫定則様の 御玉串の一部を
- 木村 サシ子 様 金三万円。亡夫實雄様のご香料の一部を
- 中村 孝行 様 金二万円。
- 山峯会会長 山本 峯章様 金二十万円。
- ◎三宅島噴火災害救援活動の支援の為に
- ◎三宅島の社会福祉の為に
- 匿名の方から 金一万円。
- 匿名の方から 金四、五〇〇円。

多くの人たちが関心を持っている三宅島の帰島

東京ボランティア・市民活動センター副所長 安藤雄太

三宅島を離れて四年を越え、この間、島民の皆様にとっては苦労と不安の連続だった事とお察し申し上げます。しかし、来年二月には帰島が明確になり、安堵感と期待が膨らむことが多い日々が続いたのではないのでしょうか。とは言え、実際に帰るまでには、むしろ帰島してからどのような生活になるのか戸惑いを感じているのではないのでしょうか。

雄山の最初の噴火は島に降灰をもたらし、心配はしたものの灰の除去で落ちつくものと思いつながらボランティアでお手伝いをさせて



ふれあい集会司会をされる安藤氏 ネットワーク東京ハ
ンディキャブ連絡会、
そして私も東京ボ
ランティア・市民活
動センター等による
「三宅島災害支援ボ
ランティアセン
ター」を立ち上げま

頂きました。しかしその後、雄山の噴火活動は予想もしない方向で展開していき、全島避難となる直前の八月末に三宅島を訪ね、その惨状に驚きながらも避難に向けた準備のお手伝いをさせて頂きました。その直後、避難先となった地域の社会福祉協議会・ボランティアセンターの協力をいただきながらボランティアによる緊急支援を組ませていただきました。長期化するのも予想しながら多くの方々からの支援体制が必要となる為、三宅島社会福祉協議会をはじめと

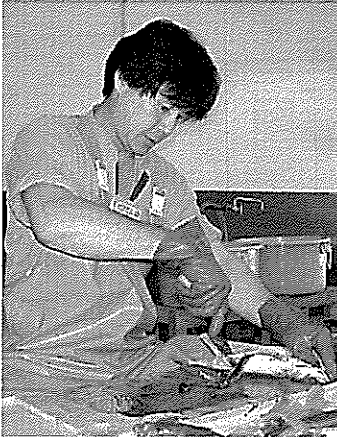
する東京災害ボランティア
ネットワーク東京ハ
ンディキャブ連絡会、
そして私も東京ボ
ランティア・市民活
動センター等による
「三宅島災害支援ボ
ランティアセン
ター」を立ち上げま

した。その後は電話帳の作成、ふれあいコール、島民ふれあい集会など、多くの人達の理解と協力によって進めてくることが出来ました。そして大きな動きとなる帰島に対してどのような対応していくのかは想定がつきませんが、島民の方々の帰島状況によるものと思います。ただボランティアで当面想定できるのが高齢者や障害者の世帯等で帰島する方の引越しのお手伝いだと思います。引越しに当たって事前に家の中にある家具や畳等の片付け、掃除、家周辺の片付け、引越ししからの家具の整頓の手伝いになるのではないのでしょうか。

新島に避難され、現地でごみや店を仮再開している神着の青山敏行さんを訪問しました。突然の訪問にも喜んで頂き新島での避難生活について話を伺ってきました。

青山さんは現在、新島のくさや加工団地で作業をしています。同業の方が数件集まって共同で施設を使い作業をしている場所です。その施設の充実度には驚くばかりです。青山さんは三宅島にも同じ物を作ったかどうかと聞いていますが、実現は難しく何か良い方法は無いかと頭を悩ませているのだと言います。

作業場には三宅島から持ち出したつけ汁があり以前の味に近づくと努力している最中だそうです。作業は母



親の操さんが手伝うこともあるそうですが基本的には一人でを行っています。別棟にある三坪ほどの部屋を事務所として借りて、受注から出荷まで全てを行っています。パソコンで管理されています。それでも何とか出来るそうです。「避難当初はパソコンもほとんど出来なかったがこの四年間でだいぶ出来るようになったよ」と笑っていました。ホームページ開設などかなりの腕前です。訪問中も注文の電話が鳴り続けていました。訪問した七月はお中元商戦で毎年忙しい時期だそうですね。

しかし昨年六月にオープンしてこまでやって来るには相当の苦労があったそうです。地元には地元の決まりがあり、三宅島



と同意にはいかず、まずは新島のルールでの再開でした。やはり地元の方々の温かい協力がなければ今の状況はありえなかったと感謝していました。また家族の支えも力になったと言います。「一人では続けられなかった。母や娘といることなんだ。母や娘といっています」と。

その後、島内を案内して頂き、今回はお会いできませんでしたが三宅島の方が避難されている若郷地区や、いくつかの展望台へ行きました。あ

いにくこの日は、三宅島は雲の中で見ることはできませんでしたが、青山さんは三宅島が見える度に早く噴煙が止まらなかと眺めているそうです。来年の今頃は、三宅島でお中元の出荷をしたいと力強く語ってくれました。

七月一三日に新潟・福島両県を襲った集中豪雨は、各地に甚大な被害を起こしました。七月二四日、二五日の両日、新潟県中之島町の復旧作業に三宅島の島民三名で行ってきました。現地は路上に土嚢袋や使えなくなった家が山となっており鼻を突く強烈な臭いがたちこめていました。家の中を覗くと、多くの家が床を剥がし泥をかき出して、その中にいる被災者の顔には疲労の色が覗きました。

私達が担当した地区は地元ボランティアコーディネーターが各家庭との調整役となっていて効率よく作業が出来ました。本来このコーディネーターは被災地域の方々と密接な関係を持っていて、何よりも地元の方々に信頼される方が望まれます。私達が帰島する際にもこの役割を担ってくれる人が必要となってきます。

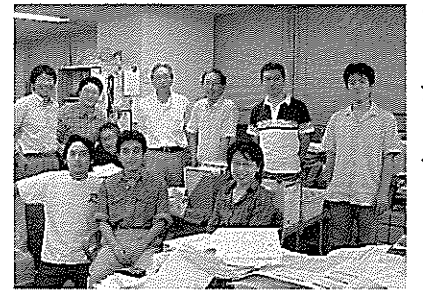
梅雨明けし強い陽射しが照りつける中、熱中症を気にしながらも側溝や庭の泥をかき出し床下の洗い流しなどの作業が続きました。被災されたご家族も最初は戸惑いを見せていたものの、作業が進むにつれ、徐々にではありますが笑顔が出るようになってきました。まだ先の見えないう状況で、私達に「本当にありがとう」と感謝の言葉をかけて下さり、こちらが感激してしまいました。

今回ボランティアに参加した事で、来年の帰島の際ボランティアを受け入れる立場としても良い勉強となりました。ボランティアの方々の気持ち、それを受け取る側の気持ちを直接感じる事が出来たのは何よりも成果です。この経験が三宅島の復興に活かせるように努力したいと思えます。

(社協事務局・早川)

ボランティアの受け入れ態勢について

四年を越える避難生活中、三宅村住民は避難先地域で、また広域で、様々なボランティア支援を受けてまいりました。地元住民との交流や三宅村住民の絆の維持についてボランティア支援の効果は大変大きかったと言わねばなりません。住民の帰島にあたっても当面はボランティア支援が必要になると思います。現在三宅村の高齢化率は三七



東京ボランティア・市民活動センターの皆さん

%です。三宅島に帰って自分達だけで家の事に手が回らうかどうかの不安を抱えている方は沢山います。現在、帰島時のボランティア支援の受入については、安全対策を中心に三宅村や関係機関及びボランティア団体と体制を協議中です。決定的次第、お知らせ致しますのでお待ち下さい。(三宅島社会福祉協議会ホームページより)

が必要となってきます。梅雨明けし強い陽射しが照りつける中、熱中症を気にしながらも側溝や庭の泥をかき出し床下の洗い流しなどの作業が続きました。被災されたご家族も最初は戸惑いを見せていたものの、作業が進むにつれ、徐々にではありますが笑顔が出るようになってきました。まだ先の見えないう状況で、私達に「本当にありがとう」と感謝の言葉をかけて下さり、こちらが感激してしまいました。

今回ボランティアに参加した事で、来年の帰島の際ボランティアを受け入れる立場としても良い勉強となりました。ボランティアの方々の気持ち、それを受け取る側の気持ちを直接感じる事が出来たのは何よりも成果です。この経験が三宅島の復興に活かせるように努力したいと思えます。

(社協事務局・早川)

新島での避難生活

自主活動報告

地域との交流の場、編み物教室 ～北区桐ヶ丘～



北区にある桐ヶ丘団地には現在も二〇〇人以上の方が避難生活を続けています。この地区は桐ヶ丘三宅島ボランティア会が中心となり島民同士が助けあい、支えあいながら避難生活を送っています。また地域の様々な行事に参加するなど活発に活動されている地区です。その中で島民の自主的なサークル活動としてボランティア会の施設を使い、毎週水曜日に編み物教室が行われています。

ボランティアで教えてくださっている講師の松本先生や地元から参加されている方々も含めて毎週一、二人で活動しています。帽子やポシエット、ベストに

カーディガン、そして毛糸の人形と色々な物を編んでいます。避難してきてから始めた方が多いそうですが、中には昔を思い出しながら何十年ぶりにやっているという方もいます。はじめは難しくなかなか思うように編めなかつたそうですが、どの方も四年経った今ではその楽しさのため次から次へと作品が出来ていくそうです。帽子なら普通三日で一個出来るそうですが、早い人では一日で作ってしまおうそうです。参加者のお一人は「編み物が本当に好きなんです。特に帽子が好きなんです。色や形を考えるのが楽しくてワクワクするんです」と言います。他の方も普段からデザインを考えるのが楽しく、色はどうしよう、柄はこうしよう、ポシエットにこんなポケットを付けてみよう、アイディアが次々と浮かんでくるようで、ついつい寝る間も惜しんで作ってしまうと笑います。皆で集まる

とお互いに編み方を教えあつたり冗談を言い合いながら、時には三宅島の話を聞いて、いつも笑いの絶えない明るい雰囲気の中で楽しみながらやっています。その中には二年ほど前から参加している地元の方々もいて「お互いにもう境がなくなつちゃって」と本当に打ち解け合つていて仲の良さを感じる事が出来ました。取材したこの日は一〇月に行われる北区の区民祭りでバザーに出品する作品を作っていました。北区社会福祉協議会のご協力のもと今年で四回目の参加となる今回は、避難当初からお世話になってきた地元北区の方々には是非お礼をしたいという事で、手編みの帽子などを今までよりも更に安くおわけするそうです。一つひとつの作品に作った方々の思い入れがあつて色使いも好みが出ています。本当におしゃれな帽子でバザーでは毎年売切れてしまふそうです。一月に行わ



先日の一時帰島で主人が茅や竹を切ってきたので我が家のはつきり見えた様です。帰りは神津島により興奮冷めやらない様子で取材を受け戻ってきました。

三宅はもちろん伊豆諸島の海の青さはとても美しく釣りの父、ダイビング好きの私にとっては一日も早く島に帰りたいと願うばかりです。今回貴重な体験をさせて頂き父もいい思い出ができたと思います。エクスセル航空、社協、ハンディキャブの方々にお世話になりました。【八王子市/浅沼多津子(父・義信さん)】

避難している各地にこのような自主活動を目的として、集まる場所が身近にあるという事は長期に渡る避難生活の中で心休まる時間を少なからず得ることができたのではないのでしょうか。また地域の大きな支えとなったと言えます。今後もこの出会いが私達の力となることを願います。

空からの三宅島クルージング

敬老の日、四年ぶりの三宅島 ヘリコプターで空から我が家を！



九月二〇日の敬老の日、「空からの三宅島クルージング」が行われました。これは避難後さまざまな事情により一時帰島もできず故郷の姿を見ることが出来ない島の方々をヘリコプターで三宅島上空までお連れしたいと、エクスセル航空(株)(浦安市)から暖かい提案があり実現したものです。当日は東京ハンディキャブ連絡会の協力により福祉車両による移送を行うことができ、身体の不自由な方が中心に二家族(二〇名)が参加されました。今回の企画は社協だけでは実現できませんでした。ご提案を頂いたエクスセル航空に心より感謝致します。

父にふるさとを…

三宅で働く主人が戻ると「まだ帰れないのか」「帰っても何もできないな。もうダメだな」と言っていた父が七月の帰島宣言に問題を掲げながらも徐々に帰れる希望を持ち始め「島にある鎌や鍬は錆びて使えないだろう。帰る時は新しいのを買って行かなきゃな」と頼もしい事を言い出しました。

八月、村の封筒の中に「三宅島クルージング」の案内が入っていました。乗り物に弱い九〇歳の父には無理だろうなと思いつつも、一度も帰ってない父に島や家を見せてあげたいと思い、本人に聞いてみると「うーん、行ってもいいかな」との返事。えっ！ほんとに大丈夫？逆に心配になった私。医師の許可があれば行けるということで、早速主治医にOKサインをもらって来た父は本当に嬉しそうです。

当日はハンディキャブの方に迎えに来て頂き浦安へ

レポートまで一時間ほどのドライブ。少々疲れ気味の父でしたが、数年ぶりにお会い出来た方もいてとても喜んでいました。

いよいよ搭乗。少し緊張気味でしたが元エンジニアの父はヘリの計器に興味を示し、じつと見ていました。皆様に見送られヘリは上昇、機内は思ったより静かで揺れも少なく快適でした。大島付近から父は身を乗り出し窓下を眺め、島々の話をしてくれました。

一時間後、三宅島が見えてきて歓声が上がります。雄山の変わり果てた姿は痛々しく目に映ります。ダム、港、道路と整備され、作業車も見えます。枯れ木も見えますが「小島さえずる緑の島よ」に戻りつあると信じ参加者の自宅上空を旋回。阿古の上空で我家を探す父はどこか子供のようでした。「あつ見えた、見えた」「山をしようっているからすぐに分かるよ」「屋根の色が違うな。綺麗だな」と話していました。



先日の一時帰島で主人が茅や竹を切ってきたので我が家のはつきり見えた様です。帰りは神津島により興奮冷めやらない様子で取材を受け戻ってきました。

三宅はもちろん伊豆諸島の海の青さはとても美しく釣りの父、ダイビング好きの私にとっては一日も早く島に帰りたいと願うばかりです。今回貴重な体験をさせて頂き父もいい思い出ができたと思います。エクスセル航空、社協、ハンディキャブの方々にお世話になりました。このような企画をして頂きありがとうございます。【八王子市/浅沼多津子(父・義信さん)】

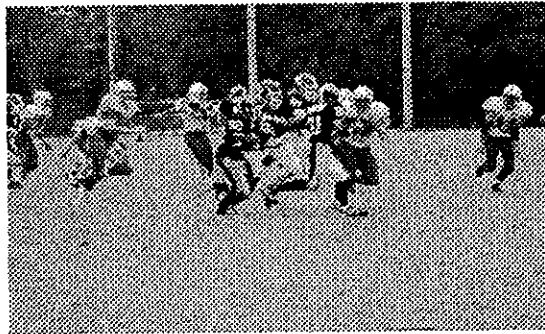
三宅高校通信

発行 東京都立三宅高等学校
 責任者 校長 黒澤 真木夫
 〒197-0831 あきる野市下代継2 2 1
 TEL 042-558-0156 FAX 042-558-9739
<http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp>

アメフト公式戦 を終えて

アメフト部顧問

桑原 信一郎



私が本校で、アメフト部を指導したのは二度目となりました。
 今回は、十名全員が未経験者であり、公式戦を四ヶ月後に控えていることから、かなりの強行スケジュールで臨みました。正直言って、ここまで生徒達が、真面目に休まず練習に取り組むとは、予想していなかったもので何度も感心させられました。

夏の酷暑の中、互いにストレスを感じながらの練習。涙を流しながらのチャレンジ。十時から十七時までの二部練習。強豪校との合同練習。精神的にも肉体的にも厳しい状況だったにもかかわらず、脱落者は皆無でした。その結果、勝敗に関係なく、久しぶりに自信をもって試合に送り出せるチームに成長してくれたと思います。アメフト部は、残念ながらまだまだ長い休部状態になります。私も生徒達もこの四ヶ月間の経験を今後の学校生活に生かし、それぞれの新たな目標に努力する所存です。公式戦までいろいろな面で支えていただいた方々に、心から感謝いたします。ご声援ありがとうございました。

帰島に関する学校説明会の実施

帰島対策委員長

山本 政信

来年二月の「避難解

除宣言」発表の見通しを受けて、九月二十三日に一・二年生とその保護者、現中学三年生とその保護者を対象にした学校説明会を開催いたしました。

内容は、来年度の三宅高校の体制についてが主なものでしたが、夏休み中に高校独自で実施した意向調査の結果、半数以上の方々が、態度を決めかねているということが判りました。そこで、急ではありましたが、今考えられることを中心に、多くの情報を提供して、在校生には不安を与えないように、中学三年生には、高校進学を判断をしなければならぬ時期を前に、早めに開催することになりました。九月十八・十九日には三宅村の説明会があり、帰島に関する詳細がある程度判るのではないかと、予想もありましたが、決定打にはならなかったように思います。今回の学校説明会の段階では、ハッキリしていないこともあり、もう少し遅い時期にとも考えられましたが、村の

帰島準備が進む中で、学校も早めの対応が必要であろうという判断での開催となりました。当日は、在校生の保護者が九名、中学三年生の保護者が七名出席。学校の説明の後、活発な質問が出され、それぞれの家庭の事情や、共通した悩みを発言して頂きました。出席された保護者の方々が、また生徒達がどう判断するかは、今後、機会があるごとに確認していきます。引き続き、就学相談室では、個々に応じた相談を受け付けていきますので、ご利用下さい。

小中高合同文化祭(三高祭)のお知らせ

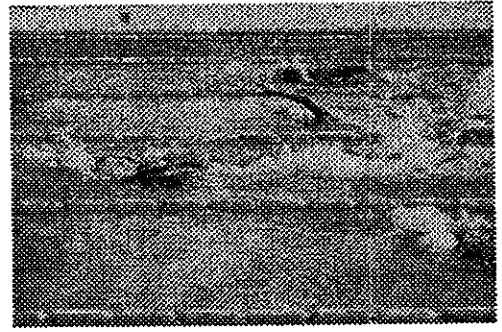
文化祭担当(英語科)

高橋 等

十月三十一日(日)
 午前十時より午後三時に秋川校舎(体育館・武道場・昼礼場)にて三高祭を小学校・中学

校合同で開催いたします。早いもので三宅高校が秋川校舎に避難して五年目となりました。当初は百名近くいた生徒も現在では三十名と年々減ってしまいました。が、行事に取り組むパワーは大人数の学校に決してひけをとらないものがあります。少人数のためほとんどの生徒が複数の企画に関わっており文化祭直前になると多忙を極めております。テーマは「三宅ボンバイエ」。(ボンバイエとはポルトガル語で「爆発」の意味です。)今年度はだしものとして、ファッションショー、バンド演奏、教員合唱、模擬店(焼きそば、フランクフルト、磯辺焼、ほうろく焼、ジュース)、展示(天文部、修学旅行)が予定されています。「少数精鋭」の持ち味を最大限に活かして「三宅ボンバイエ」のテーマにふさわしい盛り上がった文化祭にしようと思っております。ぜひともご参加お願いいたします。

水泳大会



体育科 近岡 和朗

ハイレベルで楽しめる大会になることは予想できた。なぜなら普段の彼らの授業を見てからだ。何せ島の子。池のカップパじやないけれど、よく泳ぐし頼もしい。また、三宅島で人なつつく泳ぐイルカのような。そして全ての泳法をマスターしている。だから誰でもどの種目にも参加出来る。たいしたもんだ。大会はSチーム・Mチームと全学年二十九人を二チームに分け、それぞれ競技を争うものだ。残念ながら

在校人数が少ないので、それぞれの種目が一発決勝となる。

当日は午前中に授業を終え、午後には大会を開催した。天候はあいにくの曇り空となり、いささか肌寒い感じとなったが、元気な生徒諸君とプールサイドには校長先生を始め担任の先生や教職員、さらに中学校の先生まで応援に来てくれた。二チームの代表選手による選手宣誓があり、水泳部顧問の岡田先生のスタートの号砲により、競技が開始した。男女入り混ぜての競争であるが、学年はさすが三年生体力が違う。しかし男女の差がない生徒もいる。沢山の応援の中、競技に参加できなかった生徒も含み、とても盛り上がった水泳大会となり生徒たちは充分に楽しめた第四回水泳大会ではなかったでしょうか。

『少人数指導と学校設定科目』島しょ研修会報告

平成十六年九月二十九日、島しょ研修会が行われました。本年度は『少人数指導と学校設定科目』を研修テーマとし、三宅高校の学材に研究授業、研究協議を行いました。マルチメディアAは、題材に研究授業、研究協議を行いました。マルチメディアAは、パソコンを用いてタイプニングの練習やワープロ、表計算ソフトの活用、画像編集ソフトの利用、情報リテラシーの育成などが、パソコンを使うのが楽しくなることを目標に授業展開しています。また、本講座は三年生の選択授業で、現在六名が受講しています。毎年当該学年の



農業科 岡田 満江

七割近くの生徒が受講する、人気のある講座です。

研修会の研究授業では、画像編集ソフトを用いて絵はがきをデザインしました。海をモチーフに、本校の池田教諭が噴火前に撮影した三宅島の魚の画像を加工し、絵はがきを作成する課題でした。久しぶりに見る三宅の魚に見入ってしまう生徒もいました。海のイメージはすぐにデザインできると思っていたのですが、海だからこそこだわらる生徒もいました。全体的に急ぎ足になって細かな説明などを省いてしまったところ、生徒一人ひとりの対応に追われてしまい全体の進行がおろそかになってしまったところが主な反省点です。

新しく来た教職員より

「はじめまして」

事務職員 中島 弘隆

はじめまして。三宅高校事務室の中島と申します。

今年四月、東京都職員に採用されました。私にとつて、三宅高校は『人生最初の職場』となりました。期待・不安など、さまざまな想いを胸に働き出して、すでに半年が経とうとしています。四月当初は全てが初体験で毎日緊張の連続でした。しかし、今では職場にも、仕事にも慣れ、充実した日々を過ごしています。

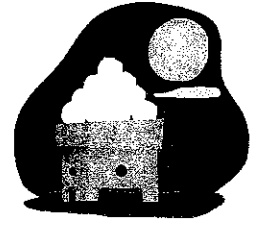
られてばかりでした。今後は支えてくださった方々の期待に応えられるように、また、信頼される事務職員になれるように、精一杯努力したいと思います。まだまだ至らないところも多いと思いますが、みなさんよろしくお願ひします！

編集後記

今年には台風の襲来が多い年です。台風通過後の早朝にはメタセコイヤの枝葉が散乱し、風雨の凄まじさをものがたります。

三宅高校は来年二月の「避難指示解除」の見通しを受けて、平成十七年四月の学校再開に向けて準備を進めております。帰島準備と併せて、文化祭の準備に生徒達は熱心に毎日取り組んでいます。今年度の小中高合同文化祭は秋川校舎での最後の合同文化祭になります。皆様のご来校を児童・生徒、教職員一同こころよりお待ちしております。

第9回三宅島島民ふれあい集会 開催決定!



2004年11月28日(日)
10:30~15:00(予定)
港区立芝浦小学校・芝浦幼稚園

主催:第9回三宅島島民ふれあい集会実行委員会

三宅島島民連絡会/三宅島社会福祉協議会/東京ボランティア・市民活動センター/
三宅島災害・東京ボランティア支援センター

共催:東京都三宅島三宅村(予定) 後援:東京都・東京都港区(予定)

協賛:(財)東京都福利厚生事業団(予定)

きんもくぜいの香りが満ち、台風一過すっかり秋らしくなってきました。来年2月の避難指示解除に向け、忙しい中ではありますが、また、みんなで集まって楽しもうと、「三宅島島民ふれあい集会」を企画しています。これまでどおり、避難先のお近くまで、はとバスで送り迎えする他、ご自分での移動が難しい方の個別の送り迎えのご希望にも応じられるよう準備をすすめています。

各地に離れて避難している島の仲間やボランティアさんたちに会えるチャンスです。お誘い合わせて、ぜひいらしてください。

島民実行委員会でも、『島民みんなで作り上げる集会にしよう』と、知恵を集めています。ご意見・アイデアを思いついたらお気軽に事務局までお寄せくださいませ。

毎回好評の島民作品展でも、作品を大募集。ご連絡お待ちしております。

お問合せ先

第9回三宅島島民ふれあい集会実行委員会事務局

三宅島災害・東京ボランティア支援センター

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1 東京ボランティア・市民活動センター 411号室

TEL: 03-3260-7573

FAX: 03-5229-1646

E-mail: tokyocenter@cmppa.org